

ストラディヴァリウス&デル・ジェス
チャリティコンサート 2011
～ 2つの1736年製ヴァイオリン「ムンツ」～

2011年1月27日(木) 19:00
いずみホール(大阪)

2011年1月29日(土) 15:00
北國新聞 赤羽ホール(金沢)

PROGRAM

ジャン＝マリー・ルクレール
Jean-Marie Leclair (1697-1764)

2つのヴァイオリンのためのソナタ 第2番 イ長調 作品3-2
Sonata for Two Violins No. 2 in A major, Op. 3-2

I Allegro II Siciliano (Largo) III Allegro

1 st Violin	有希・マヌエラ・ヤンケ	Yuki Manuela Janke
2 nd Violin	渡辺 玲子	Reiko Watanabe

カミーユ・サン＝サーンス
Camille Saint-Saëns (1835-1921)

序奏とロンド・カプリッチョーソ イ短調 作品28
Introduction and Rondo Capriccioso in A minor, Op. 28

ヘンリク・ヴィエニャフスキ
Henryk Wieniawski (1835-1880)

華麗なるポロネーズ 第1番 二長調 作品4
Polonaise No.1 in D major, Op. 4

Violin	有希・マヌエラ・ヤンケ	Yuki Manuela Janke
Piano	江口 玲	Akira Eguchi

モーリツ・モシュコフスキ
Moritz Moszkowski (1854-1925)

2つのヴァイオリンとピアノのための組曲 ト短調 作品71
Suite for Two Violins and Piano in G minor, Op. 71

I Allegro energico II Allegro moderato
III Lento assai IV Molto vivace

1 st Violin	渡辺 玲子	Reiko Watanabe
2 nd Violin	有希・マヌエラ・ヤンケ	Yuki Manuela Janke
Piano	江口 玲	Akira Eguchi

＜特別企画＞

～同じ曲を2つのヴァイオリンで聴く～

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ
Johann Sebastian Bach (1685-1750)

「ガボット」独奏ヴァイオリンのためのパルティータ
第3番 BWV 1006 より
“Gavotte en Rondeau” from Partita No.3 in E major
for Solo Violin, BWV 1006

フリッツ・クライスラー
Fritz Kreisler (1875-1962)

ウィーン奇想曲 作品2
Caprice Viennois, Op. 2

愛の喜び
Liebesfreud

フランツ・ワックスマン
Franz Waxman (1906-1967)

カルメン幻想曲
Carmen Fantasy

Violin	渡辺 玲子	Reiko Watanabe
Piano	江口 玲	Akira Eguchi

パブロ・デ・サラサーテ
Pablo de Sarasate (1844-1908)

ヴァイオリン二重奏曲「ナバラ」作品33
Navarra for Two Violins and Piano, Op. 33

1st Violin	渡辺 玲子	Reiko Watanabe
2nd Violin	有希・マヌエラ・ヤンケ	Yuki Manuela Janke
Piano	江口 玲	Akira Eguchi

使用楽器

渡辺玲子 ガルネリ・デル・ジェス 1736年製ヴァイオリン「ムントツ」
Reiko Watanabe Guarneri del Gesu 1736 Violin “Muntz”

有希・マヌエラ・ヤンケ ストラディヴァリウス 1736年製ヴァイオリン「ムントツ」
Yuki Manuela Janke Stradivarius 1736 Violin “Muntz”

PROGRAM NOTES

ジャン＝マリー・ルクレール
Jean-Marie Leclair (1697-1764)

2つのヴァイオリンのためのソナタ 第2番 イ長調 作品3-2 Sonata for Two Violins No. 2 in A major, Op. 3-2

音楽の父、J.S. バッハ(1685-1750)と同時代に生まれたジャン＝マリー・ルクレールは、レース製造業を営む音楽一家の長男としてフランスのリヨンに生まれた。イタリアのトリノで舞踏家として成功していたが、J.S. バッハに影響を与えたイタリアの作曲家であるコレッリの弟子 G.B. ソーミスとの出会いをきっかけに本格的にヴァイオリンの道に進む。1年程ソーミスに学び、パリでデビューを果たした。その後、ルイ15世の王室楽団の音楽監督の地位を得たが、2年で辞任し、アムステルダムにて作曲活動を始める。フランス・ヴァイオリン楽派の祖と言われるルクレールは、ヴァイオリンのために数多くのソナタを書いた。彼の作品は非常に高度な技術を要するものが多いが、この作品は、1730年作曲当時から比較的アマチュアにも好まれて弾かれていた。舞踏家ならではの優美で流れるような旋律が特徴とされている。

カミーユ・サン＝サーンス
Camille Saint-Saëns (1835-1921)

序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 作品28 Introduction and Rondo Capriccioso in A minor, Op. 28

この作品は、サン＝サーンスが名ヴァイオリニスト、サラサーテのために1863年に作曲した。穏やかな序奏の後に、スペイン風のリズムによる舞曲調のロンド主部が続く。官吏の家庭に生まれたサン＝サーンスは、神童と称され、3歳でピアノ曲を作曲した。彼は他の分野においても秀才ぶりを発揮し、後に、天文学者、数学者、詩人としても活躍している。1871年にはフランク、フォーレらと共にフランス国民音楽協会を設立した。サン＝サーンスは、その才能により多くの教養人と交友関係にあったが、一方で、彼の成功と風刺の利いた毒舌は多くの敵も作った。1888年に最愛の母を失うと、サン＝サーンスは演奏であれ、休暇であれ、あちこちに旅行するようになる。1921年、旅行先のアルジェリアで亡くなった。

ヘンリク・ヴィエニャフスキ
Henryk Wieniawski (1835-1880)

華麗なるポロネーズ 第1番 二長調 作品4
Polonaise No. 1 in D major, Op. 4

ヴィエニャフスキは、1835年、帝政ロシアの実質的な支配下にあったポーランドで生まれた。8歳でパリ音楽院に入学し、10歳の若さでヴァイオリン部門において最高位で卒業した。彼は驚異的な技巧と情熱的な演奏で知られており、パガニーニの次世代のヴァイオリニストの中では比類ない才能の持ち主だった。10代の頃から欧米で演奏活動を行う傍ら作曲も始めていたが、さらなる勉学の必要性を痛感し、1849年、作曲を学ぶためパリ音楽院に再入学した。非凡な彼の才能を単なる名人芸的な技巧派と批判する声もあったが、このポロネーズが書かれた1853年には大作ヴァイオリン協奏曲第1番を含む14曲を発表し、ドイツにおいて大成功を収めた。

祖国ポーランドの舞踊音楽をテーマに1853年作曲されたこの曲は、ショパンのポロネーズを思い起こさせるようなピアノソロも聴きどころである。

モーリツ・モシュコフスキ
Moritz Moszkowski (1854-1925)

2つのヴァイオリンとピアノのための組曲 ト短調 作品71
Suite for Two Violins and Piano in G minor, Op. 71

ポーランド生まれのピアニスト、作曲家。ドレスデン音楽院の他、クラック音楽院、シュテルン音楽院、ベルリン音楽新アカデミーにて学ぶ。1886年、ピアニストとしてロンドンでフィルハーモニー・コンサートに出演するなど、ヨーロッパでの音楽活動を積極的に行った。その後、指揮者と音楽教師としても活躍する。また、作曲家として「2台ピアノのためのスペイン舞曲」や「15の熟練のための練習曲 作品72」など200曲以上のピアノ小品の他、室内楽曲や歌劇などより大きな作品も遺している。さまざまな国の音楽描写を試み、その作品は異国情緒にあふれ、華やかさを特徴としている。

彼の弦楽作品の中でも有名なこの作品は、豊かな交響曲を思わせる第1楽章、エレガントなワルツの第2楽章、しっとり聴かせる第3楽章と続き、最終楽章ではヴァイオリンとピアノの音色が陽気にフィナーレへと駆け抜けていく。

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ
Johann Sebastian Bach (1685-1750)

「ガボット」独奏ヴァイオリンのためのパルティータ
第3番 BWV 1006 より
“Gavotte en Rondeau” from Partita No. 3 in E major
for Solo Violin, BWV 1006

J.S. バッハの作曲した無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ BWV1001-1006 は、3曲ずつのソナタとパルティータの合計6曲の曲集で、ヴァイオリン独奏の楽曲として、古今の名作の一つに挙げられる。1720年、作曲当時35歳のバッハは、宮廷楽長として、音楽好きの君主レオポルド侯に仕え、世俗曲とされた協奏曲や室内楽曲を多く作曲していた。プライベートでは君主との旅行中に妻が急死する不幸に見舞われる。パルティータとは17世紀から18世紀の独奏楽器による組曲で、曲の展開に舞曲の要素が取り込まれている。

パルティータ第3番は、バッハ自身がリュート用に編曲したことで知られており、明るい曲調が印象的。

フリッツ・クライスラー
Fritz Kreisler (1875-1962)

ウィーン奇想曲 作品2
Caprice Viennois, Op. 2

愛の喜び
Liebesfreud

オーストリア生まれのアメリカ人ヴァイオリニスト、作曲家であるフリッツ・クライスラーは、4歳の時に父からヴァイオリンの手ほどきを受けた。14歳以下の者は受け入れない方針だったウィーン音楽院に、わずか7歳で入学を許可されている。その後パリ音楽院に学び、12歳で卒業した。10代に国際的な演奏活動を行ったクライスラーは、医学と芸術を学ぶため演奏を一度中断するが、1899年ベルリンでセンセーショナルな再デビューを果たし、大成功を収めた。その後、1950年まで各地で演奏活動を続け、アメリカで最も人気のあるヴァイオリニストとなった。クライスラーは才能ある作曲家でもあり、数々のヴァイオリンの作品を書いている。オリジナル作品には、弦楽四重奏曲、2つのオペレッタ、ベートーヴェンとブラームスの協奏曲のカデンツァや多数の小曲がある。

本日演奏される2曲(1910年作)は、いずれも多くの人々に愛され続けているヴァイオリンの名曲である。

フランツ・ワックスマン
Franz Waxman (1906-1967)

カルメン幻想曲
Carmen Fantasy

ヒッチコックのサスペンス映画に、緊張感溢れる楽曲を数多く提供した20世紀を代表する作曲家フランツ・ワックスマンは、多くのコンサート曲を書いたことでも知られている。ドイツ領シレジア地方（現ポーランド）に生まれ、幼少の頃よりピアノをたしなみ、17歳でドレスデン音楽大学に入学。後にベルリン音楽院でも学んだ。ワックスマンは、映画のサウンドトラックでアカデミー賞に12回ノミネートされ、そのうち映画「サンセット大通り」と「陽のあたる場所」では、作曲賞を受賞している。

カルメン幻想曲は、ビゼーのオペラ「カルメン」を題材に、当初は映画「ユーモレスク」のために1947年作曲された。映画版はアイザック・スターンが録音したが、後にヤツシャ・ハイフェッツのためにオーケストラ版に書き直されている。

パブロ・デ・サラサーテ
Pablo de Sarasate (1844-1908)

ヴァイオリン二重奏曲「ナバラ」作品 33
Navarra for Two Violins and Piano, Op. 33

サラサーテは作曲家であると同時にヴァイオリンの名手として有名である。1844年スペイン北部のバスク古代都市であるパンプローナに生まれ、5歳でヴァイオリンを始める。8歳で初めて公の舞台上で演奏し、その才能から後援者を得て、後にパリ音楽院で学んだ。彼の演奏はたとえようもなく甘味で純粋な音を特徴とし、また、優れた技巧は多くの作曲家を魅了した。サン＝サーンス、ヴィエニャフスキ、ヨアヒムなど多くの作曲家が創作意欲をかきたたられ、作品を献呈している。自らも作曲家として「ロマ（ジプシー）のメロディー」という意味の「ツィゴイネルワイゼン」や「カルメン幻想曲」など、現在でも名人芸的技巧のレパートリーでは必須である作品を作曲している。

1889年作曲のこの「ナバラ」は、ピアノと2つのヴァイオリンが掛け合いながら陽気なスパニッシュダンスを奏でる大変楽しい曲である。

渡辺 玲子

Reiko Watanabe (violin)



©Yuji Hori

15歳の時に、第50回日本音楽コンクール（1981年）において最年少優勝し、同時に全部門を合わせて最も優れた者に与えられる増沢賞を受賞した。翌年、「若い芽のコンサート」にてNHK交響楽団とバルトークのヴァイオリン協奏曲第2番を共演し、デビューを飾る。1984年、ヴィオッティ、1986年、パガニーニ両国際コンクールで最高位を受賞。1985年からは、ニューヨークのジュリアード音楽院に全額奨学生として留学し、1992年、同音楽院大学院を修了した。

これまでにBBC交響楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団、バンベルク交響楽団、NHK交響楽団など、世界の一流オーケストラと共演している。1999年、リンカーン・センターにおいてリサイタルを開催し、ニューヨークデビューを果たした。2004年浜離宮朝日ホールでのシリーズ「ブラームスとその系譜」は、演奏の素晴らしさに加えて、時代を見通したユニークなプログラムでも注目を集めた。このほか、ラヴィニア音楽祭、イタリアのストレーザ音楽祭にも出演している。

ジュゼッペ・シノーポリ指揮シュターツカペレ・ドレスデンと共演したベルクのヴァイオリン協奏曲は、1997年、テルデック・レーベルからCDがリリースされると同時に高く評価された。このほか、「カルメン・ファンタジー」、「バッハ」、サンクトペテルブルク交響楽団と共演した、「チャイコフスキー&ショスタコービッチ：ヴァイオリン協奏曲」などがある。

2004年より、国際教養大学特任教授（秋田県）として、集中講義「音楽と演奏」を行っている。

1996年から2001年までの5年間、日本音楽財団からストラディヴァリウス1709年製ヴァイオリン「エングルマン」を貸与された。

本日の演奏は、日本音楽財団のガールネリ・デル・ジェス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」を使用。

有希・マヌエラ・ヤンケ
Yuki Manuela Janke (violin)



©Shigeto Imura

1986年、ドイツ人の父と日本人の母のもとミュンヘンで生まれる。3歳からヴァイオリンを始め、5歳の時、ドイツ青少年音楽コンクールの最年少グループで最初の優勝を飾った。9歳の時には、ドイツでオーケストラと共演し、ソリストとしてデビューを飾った。ザルツブルク・モーツァルテウム国立大学で、イゴール・オジムに師事する。

2004年、パガニーニ国際ヴァイオリンコンクールにおいて最高位を受賞すると同時に3つの副賞全てを受賞する。2007年にはチャイコフスキー国際コンクール3位入賞、サラサーテ国際ヴァイオリンコンクールでは優勝を果たす。その他、ルイシュポア国際ヴァイオリンコンクール、ブラームス国際音楽コンクール、レオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリンコンクール、ロン・ティボー国際音楽コンクールなど、多くの国際コンクールで入賞している。

これまでに共演した主要なオーケストラはベルリン放送交響楽団、ケルンWDR放送交響楽団、アカデミー室内管弦楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団、NHK交響楽団などがある。ソリストとしての活動の他、姉と2人の兄と共にピアノカルテットやトリオを結成し、室内楽奏者としても活動している。

レコーディングでは2006年、ドイツのラム社より、パガニーニ、チャイコフスキー、サン＝サーンスなどを収録したデビューCD「ヴァイオリンリサイタル」をリリースしている。

2007年11月より日本音楽財団から貸与されているストラディヴァリウス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」を使用している。

江口 玲

Akira Eguchi (piano)



©Rikimaru Hotta

東京に生まれ、東京藝大附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業、その後同校にて助手を務めた後、ジュリアード音楽院のピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを修了。現在、欧米及び日本をはじめとするアジア各国でのリサイタルや室内楽、協奏曲等で活躍している他、ギル・シャハム、竹澤恭子、アン・アキコ・マイヤース等、数多くのヴァイオリニスト達と共演している。

これまでに発売されたアルバム「Dear America,」(2002年)、「巨匠たちの伝説」(2003年)、「Dear Chopin, Jeszcze Polska nie zginela (親愛なるショパンへ、ポーランド未だ滅びず)」(2010年)など、多数のアルバムにおいてレコード芸術特選盤に選ばれている。「巨匠たちの伝説」では、カーネギーホールオープン時にステージ上にあった1887年製のピアノを使用し、カーネギーホールで録音された。

これまでに、ジュリアード音楽院からは権威あるウィリアムペチェック賞と、大学院を最優秀の成績で卒業した者に贈られるウィリアム・シューマン賞を受賞、及び同校のジナ・バックアウアー奨学金コンクールとコンチェルトコンペティションにて第一位を獲得、そのほかパリ国際室内楽コンクール入賞、ポーランドのヴィニャフスキー国際ヴァイオリンコンクールでは優れた伴奏者に送られるアレイダ シュヴァイツァー賞を授けられている。作曲家としてはモーツァルトのヴァイオリン協奏曲のカデンツァをヴァイオリニストの竹澤恭子に依頼され、宮崎音楽祭で演奏されたほか、チェリストの岩崎光のためにもハイドンのチェロ協奏曲のカデンツァを書いている。また2003年11月には全音楽譜より自らの編曲によるラプソディー・イン・ブルーを含む「ガーシュイン ピアノ作品集」が発売され、好評を得ている。

現在、ニューヨーク在住。ニューヨーク市立大学ブルックリン校にて教鞭を執っている。また2006年より洗足学園音楽大学大学院の客員教授を務めている。

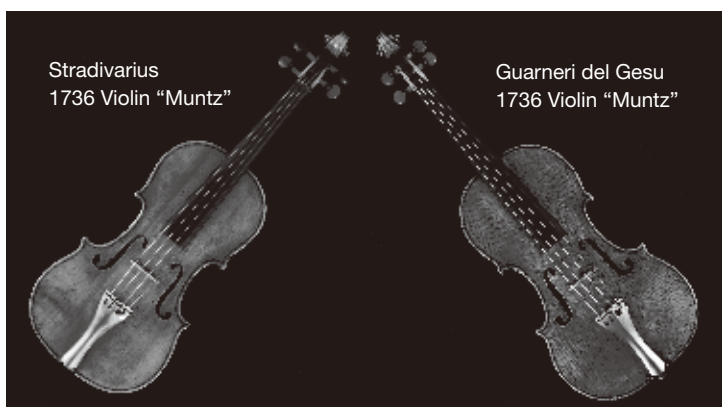


Photo: S. Yokoyama

アントニオ・ストラディヴァリ（1644-1737）は、クレモナの弦楽器製作の第一人者であるニコロ・アマティ（1596-1684）の弟子としてクレモナのヴァイオリン製作の伝統を受け継ぎ、当時から今日に至るまで最も偉大な弦楽器製作者として知られている。後に二人の息子フランチェスコとオモボノも父親の後を継ぐが、ストラディヴァリ族からアントニオを超える者はなく、現在「ストラディヴァリウス」として多くの演奏家が一度は手にしたいと憧れる名器は、アントニオによって作られたものである。彼の製作した「ストラディヴァリウス」は、音色の素晴らしさ、構造の美しさと精密さで知られている。

バルトロメオ・ジュゼッペ・ガルネリ（ヨーゼフ・ガルネリウス・デル・ジェス）（1698-1744）は、ニコロ・アマティの弟子であった祖父アンドレア・ガルネリ（1626-1698）に始まった弦楽器製作一族の一人で、ストラディヴァリと並んで弦楽器製作界の双璧と称されている。ガルネリ族には、祖父アンドレアの他、兄ピエトロなどがいるが、今日ガルネリの名器といえればバルトロメオ・ジュゼッペ・ガルネリの作ったものを意味し、楽器の内側のラベルにイエズス会を示す IHS の符号と十字架が書かれていることから、彼が製作した楽器は、「デル・ジェス」（イエスの）と呼ばれ親しまれている。力強く深みのある音色が特色で、弓の圧力に耐えうる特質を備えている。

300年を越えて受け継がれてきた名器「ストラディヴァリウス」と「デル・ジェス」には、それぞれ過去の著名な所有者や楽器の特色に因んだニックネームが付けられている。

本日使用する2つの「ムンツ」はバーミンガムのコレクターでアマチュア演奏家でもあったH.M. ムンツ氏が所有していたことに由来している。

いずみホールの音楽普及活動

財団法人住友生命社会福祉事業団は、昭和 35 年に設立された公益法人で、社会の福祉および文化の振興に貢献すべく事業を展開しています。

音楽文化振興事業として位置付けられている、ここいずみホールでは、地域の文化振興を目的として、様々な取り組みを行っています。中でも、私たちが最も力を注いでいるのが、次世代育成をテーマとした事業です。

平成 17 年度より毎年夏休みに「いずみ子どもカレッジ」という小学生向けの音楽ワークショップと無料コンサートを実施しており、毎回好評を得ています。ワークショップにいたっては抽選となるほどの人気です。そして開場 20 年を迎えた平成 22 年度からは、大阪市教育委員会、大阪市音楽団、いずみホールによる共同主催で「小中学生音楽鑑賞教室」を開催しています。同じく平成 22 年度から、ホール主催公演に青少年を無料招待する「ユース・シート」も事業の目玉として展開しています。

このほかにも福祉事業の一環として、平成 15 年度より、障害者とその家族やボランティアの方々を招待する「いずみホール夢コンサート」を開催しています。この公演では、盲導犬帯同者や車椅子利用者のほか、聴力障害者の方々にも骨伝導による体感システムで音楽会を楽しんでいただいています。

このように、いずみホールは様々な方に上質の音楽をお楽しみいただけるよう、数多くの普及活動を実施しています。



いずみ子どもカレッジ 2010

大阪公演の収益は、「いずみホール音楽普及活動」のために使われます。

財団法人石川県芸術文化協会「0歳からの音楽会」



2010年4月に行われた「0歳からの音楽会」

財団法人石川県芸術文化協会は、石川県内の芸術、芸能、文芸および生活文化の普及振興事業を行うことで、伝統文化の継承と新たな文化の創造を図り、地域の文化振興に寄与することを目的として、1996年に設立されました。2010年12月現在、44の芸術、文化団体が加盟しています。

加盟団体が出演する「芸文協芸術文化祭」と「ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭」をそれぞれ隔年開催し、石川の芸術文化を県内外に発信しています。海外派遣交流文化事業として2004年にウィーン、2006年にシドニー、2008年にライブチヒ、2010年にサンフランシスコを訪問し、海外公演を行いました。

県民、市民に多くの文化芸術に触れてもらいたいとの願いから、各種公演活動にも力を注いでいます。その一つが2010年から始まった、一般のコンサートには入場できない未就学児を主な対象とした「0歳からの音楽会」です。

2010年4月の第1回公演は、動物の着ぐるみ姿のズーラシアンプラスの仲間が織りなす不思議なクラシックコンサート、2回目の7月公演では、金沢市出身の歌手井上あずみさんを招き、親子で見て聴いて楽しめるファミリーコンサートを行いました。2011年も2公演を予定しており、子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えるとともに、親子の絆を強める機会にしたいと思っています。

金沢公演の収益は、「0歳からの音楽会」のために使われます。

日本音楽財団

NIPPON MUSIC FOUNDATION

現在、アントニオ・ストラディヴァリ等によって製作された世界最高クラスの弦楽器を21挺（ストラディヴァリウス・ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン2挺）を保有しており、国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与しています。

楽器貸与に係わる基本方針並びに貸与者（演奏家）は、楽器貸与委員会決定されます。委員会は世界的な指揮者であるロリン・マゼール氏を委員長として、欧・米・アジアの代表の9名により構成されています。

当財団が保有する世界の文化遺産ともいわれる名器の保守保全に関しては、次世代に継承するための管理者としての大きな責務を負っていることを自覚し、最大の努力を払っています。楽器の保守保全及び貸与事業は、日本の音楽分野における国際貢献として世界の音楽界から高く評価されています。

日本音楽財団では楽器貸与者の協力を得て、貸与者と貸与楽器による演奏会を、日本国内と海外で毎年開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

2007年からは、特に日本国内の地方都市における演奏会に重点を置き、ストラディヴァリウスやデル・ジェスとその貸与者によるチャリティコンサートを開催しており、その収益金は開催地の音楽振興・福祉等のために使われております。今回のチャリティコンサートもその一環となります。

日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的なご支援により実施されています。

<http://www.nmf.or.jp>

日本財団は この公演を始め、 3つの分野で さまざまなサポートをしています。

日本財団は、ボートレースの売上を財源に
人々のよりよい暮らしを支える活動を推進しています。



社会福祉・教育・文化などの
活動への支援



海や船にかかわる
活動への支援



海外における人道活動や
人材育成への支援



日本財団 で 検索



2011年1月27日(木)

いずみホール(大阪府大阪市)

主 催 (財)住友生命社会福祉事業団 いずみホール
(財)日本音楽財団
特別協力 日本財団
協 賛 住友生命保険(相)

2011年1月29日(土)

北國新聞 赤羽ホール(石川県金沢市)

主 催 北國新聞社
(財)日本音楽財団
共 催 (財)石川県芸術文化協会
(財)北國芸術振興財団
石川県日伊協会
特別協力 日本財団
後 援 石川県 金沢市
北陸放送 テレビ金沢
エフエム石川 ラジオかなざわ
ラジオこまつ ラジオななお
金沢ケーブルテレビネット

(財)日本音楽財団の事業は、BOAT RACEの交付金による
日本財団の助成金を受けて実施しています。